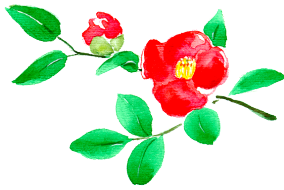




「家庭は人間教育の素地である。子どもの正しい徳性と良い習慣を養うことが、学校に入る前の大切な問題である」(安岡正篤＝東洋思想家)



学校に入学する前までに必要とされる**正しい徳性**とはどのようなものでしょうか。“素直である”“嘘をつかない”“友達(兄弟)と仲良く遊ぶことができる”・・・等。また、**良い習慣**とはどのような習慣でしょうか。“朝、自分で起きることができる”“整理整頓ができる”“「おはよう」「おやすみ」等の挨拶ができる”“簡単なお手伝いができる”・・・等。皆さんの子どもさんはどうでしょうか？家庭でできるしつけについて、考えてみましょう。

## 言 霊

皆さんは、「**言霊(ことだま)**」という言葉、聞かれたことがあるでしょうか。

言霊とは、「言葉に宿っている不思議な霊威(優れて不思議な力)。古代、その力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じられた」(広辞苑)という意味です。

言葉にすることにより、その通りになる(実現する)とは限りません。でも、人はかけられる言葉により気持ちよくなったり、不快になったりします。言葉が心に与える影響は大きいのです。子ども達には気持ちよい言葉をかけたいものですね。ここでは、かける言葉の大切さについて考えてみましょう。

皆さんが、普段子どもにかけている言葉は、どのようなものが多いのでしょうか。

「勉強しなさい」「ゲームはダメ」「テレビを消しなさい」等が、多いのではありませんか。これらの言葉は、子どもに命令する、強制する言葉で、子どもが前向きになれる言葉ではありません。その他に、子どもが前向きになれない言葉はどのようなものがあるでしょうか。「早くしなさい」「なんでできないの」「いいかげんにしなさい」、極め付きは「お父さんのようになってはだめ」「あなたなんて産まなきゃよかった」等。親から、このような言葉をかけられたときに、子どもはどのような気持ちになるのでしょうか。決して気持ちよくなるものではありません。

次に、子どもにかけたい言葉を考えてみましょう。「すごい」「よくできたね」「応援しているよ」「信じているよ」「大丈夫」「とても助かった」「ありがとう」「お母さんうれしい」・・・等。このような言葉をかけられると、子どもは、前向きになり、「もっと頑張ろう」「やってよかった」等の気持ちになるのです。

皆さんは普段、子どもに対してどちらの言葉をよく使っているか、考えてみたいものですね。

お父さん、お母さんにも、忙しい時があるでしょう、仕事場でのストレスを持ち帰るときもあるでしょう。そんな時に、子どもが思うようにできていない場合には、どうしてもかけてはいけない言葉をかけそうになります。でも、そんなときこそ、心地わるい言葉が出そうになったときはぐっところえ、心地よい言葉を使うようにしましょう。例えば、「今日はお母さん疲れちゃった。でもこれからおいしいご飯作るからね。待っててね」と。このような、お父さん、お母さんの言葉かけにより、子どもの将来に、とても大きな差が出てくることは間違いありません。

(青少年育成センター指導員＝藤村)